

自殺対策支援者、対処法など学ぶ 諫早で講演・研修会 =長崎

「自殺対策講演会・メンタルヘルス研修会」(県主催)が3日、諫早市の長崎ウエスレヤン大であった。企業や自治体などで「こころの健康づくり」にかかわる人たちが対象。約100人が、支援者に求められる知識や対処法を学んだ。

山本智一・長崎大病院精神神経科外来医長が「精神医療の現場から」のテーマで報告。「自死遺族会 Re:」の山口和浩代表は遺族の立場から、「一人で悩ませない状況をつくってやるのが大切」、NPO法人「自殺対策支援センター ライフリンク」の清水康之代表は「過去をみつめること、死から学ぶことで私たちの生きようは豊かになるはずだ」と述べた。

会場との質疑では、「休日当番医に精神科医がいない」「職場が原因で自殺者が出た場合、表面化しにくい」などの声が上がった。

日本の年間の自殺者は3万人を超えており、自殺率は先進国の中で最悪。さらに、自殺未遂者は既遂者の10倍、自殺したいと思っている人は未遂者の10倍もいる、とされている。

[読売新聞] 20070206